

松下幸之助の心を、
次の未来へ。

パナソニック ミュージアム



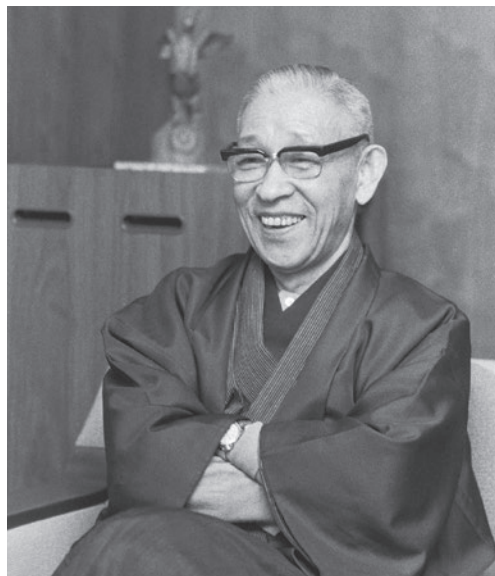
松下幸之助歴史館



パナソニックグループの創業者・松下幸之助は「企業は社会の公器」という経営理念を確立し、「事業を通じて社会に貢献する」ことを実践するとともに、企業人としての粋を超え、広く人類の繁栄と幸福を願い、その実現に情熱を傾けてきました。

「パナソニック ミュージアム」は松下幸之助の生涯や言葉を通して、その“心”を未来に伝承し続けたいという思いから、広く社会に開かれた豊かな学びの場として開設いたしました。

社会、経済、産業…あらゆる面で大きな転換期にある今日、“社会の発展のお役に立つ企業”であり続けるために、パナソニックグループは今後も経営理念に立脚し、新しい未来を切り開いてまいります。



松下幸之助 歩みつづけた94年

- 1894 和歌山県海草郡和佐村で誕生
- 1904 小学校4年で中退、大阪の宮田火鉢店に丁稚奉公
- 1905 五代自転車商会に奉公
- 1910 大阪電燈に入社
- 1913 関西商工学校の夜学に通う
- 1915 井植むめのと結婚
- 1917 大阪電燈を退職し、ソケットの生産・販売に着手



店主夫人といっしょに幸之助の最も古い写真

- 1918 大阪市大開町で松下電気器具製作所を創業
- 1922 第一次本店・工場を建設
- 1923 砲弾型電池式自転車ランプを開発
- 1927 角形ランプを「ナショナル」の商標で発売
- 1929 綱領・信条を制定



創業当時の家族写真。後列左から幸之助、義弟・井植義男、妻・むめの、前列はむめのの姉妹

- 1932 第1回創業記念式を挙行(所主告辞を発表)
- 1933 事業部制を導入
門真地区に本社・工場を建設
遵奉すべき五精神を制定(1937年に七精神に改定)
- 1934 店員養成所を開設
- 1935 松下電器貿易株式会社を設立
基本内規を制定
松下電器産業株式会社に改組



PHP創刊号

- 1940 第1回経営方針発表会を開催
- 1946 GHQより7つの制限を受ける(1952年までに解除)
PHP研究所を創設

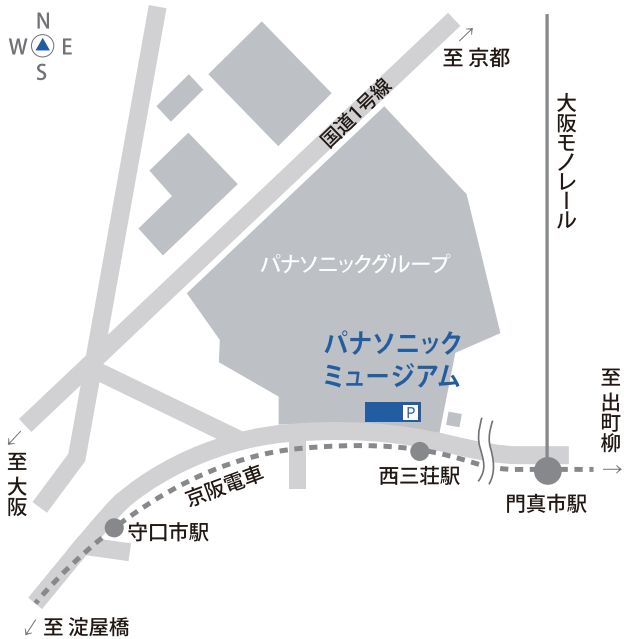
- 1951 初めて欧米を視察
- 1952 フィリップス社と提携
- 1955 アメリカ向けスピーカーの輸出に「Panasonic」ブランドを初めて使用
フィリップス社との提携に調印
- 1956 松下電器五カ年計画を発表(売上220億円を800億円に)
- 1959 戦後初の海外販売会社として「アメリカ松下電器」を設立



- 1961 会長に就任
戦後初の海外製造会社「ナショナル・タイ」を設立
- 1962 「タイム」誌のカバーストーリーで世界に紹介される
- 1964 熱海会談(全国販売会社代理店社長懇談会)を開催
「ライフ」誌に紹介される
- 1965 週5日制を導入

熱海会談

- 1970 日本万国博覧会に松下館を出展
- 1973 相談役に就任
- 1979 マレーシアからバングリマ・マンク・ネガラ勲章を受章
中国を訪問し、鄧小平副首相(当時)と懇談
- 1980 松下政経塾を開塾
- 1983 日本国際賞の実現に向けて財団を設立
- 1987 勲一等旭日桐花大綬章を受章
- 1989 4月27日 死去



- 京阪電車/西三荘駅下車 徒歩2分
- 大阪モノレール/門真駅で京阪電車に乗り換え

パナソニック ミュージアム

〒571-8501 大阪府門真市大字門真1006番地

開館時間 / 10:00～17:00

休館日 / 土曜日・日曜日・祝日・お盆・年末年始・その他

入館料 / 無料

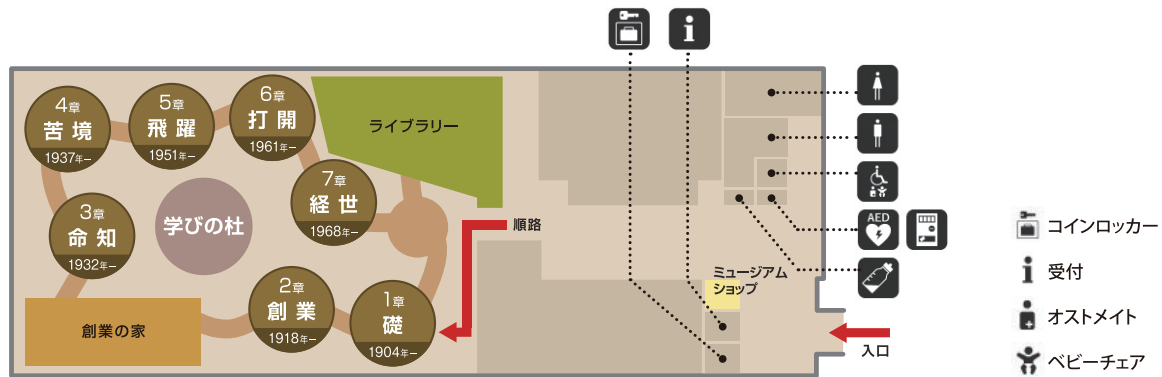
駐車場 / 普通自動車10台

パナソニックミュージアム | Q

<https://holdings.panasonic.jp/corporate/about/history/panasonic-museum.html>

●無断での転載はお断りいたします。
記載内容は2026年4月現在のものです。

松下幸之助歴史館 松下幸之助に出逢える場所



自分には
自分と与えられた道がある
広い時もある
せまい時もある
のぼりもあればくだりもある
思案にあまる時もあるだろう
しかし心を定め
希望をもって歩むならば
必ず道はひらけてくる
深い喜びも
そこから生まれてくる

松下幸之助

道

創業の家
1918年3月、松下電器器具製作所として創業した当時の作業場を再現。高い志に満ちた雰囲気を感じていただけます。

ライブラリー
松下幸之助の思想への理解がさらに深まる、著書や関連書籍をご覧ください。

ミュージアムショップ
松下幸之助関連の書籍やグッズをお買い求めいただけます。



4章 戦後の混乱を目にし、人間本来の姿を探究する

苦境

1937年ー

戦後の復興への貢献を志す幸之助は、これが人間本来の姿なのかという強い疑問を抱き、人間社会の意義について、さまざまな思いを巡らせる。

5章 アメリカで鮮烈な体験をし、世界的な観点からの経営を志す

飛躍

1951年ー

「日本にもこんな豊かな生活をもたらしたい」との決意を胸にアメリカ視察から帰国した幸之助は、日本における電化の普及を牽引していく。

6章 高度経済成長の行き過ぎを警告し、不況打開に動く

打開

1961年ー

金融引き締めが強化され、販売会社にも経営悪化が目立ち始める。幸之助は、販売会社との懇談会(熱海会談)を開き、不況打開に傾注していく。

7章 日本の未来を志向し、理想的な社会の実現に向けて動く

経世

1968年ー

1973(昭和48)年、会長の職を退任し、相談役に就任した幸之助は、憂国の情を強くしていく。

1933年竣工の第三次本店があったまさにその場所に、当時の趣を忠実に再現した建物を最新技術で新築復元。松下幸之助94年の生涯を“道”として辿りながら、幾多の苦難を乗り越える中に松下幸之助が見出した経営観や人生観を学ぶことができます。

1章 大阪で商人の礎を築くとともに、電気事業に目覚める

礎

1904年ー

9歳のときに親を離れ、大阪の五代自転車商会で奉公を始めた幸之助は、ここでお客様への礼儀作法や儲けることの意味など厳しくしつけられ、商売の基礎を学ぶ。

2章 松下電器器具製作所を創業する

創業

1918年ー

大開町(現在の大阪市福島区)で松下電器器具製作所を創業。考案した「アタッチメントプラグ」などの配線器具は、品質がよく価格も安かったため評判になる。

3章 産業人の真の使命を知り、事業家として会社の基礎を築く

命知

1932年ー

人間には精神的安心と物質的豊かさが必要であり、生産者の使命は物資を豊富にかつ廉価に生産提供することである、との思いに至る。